

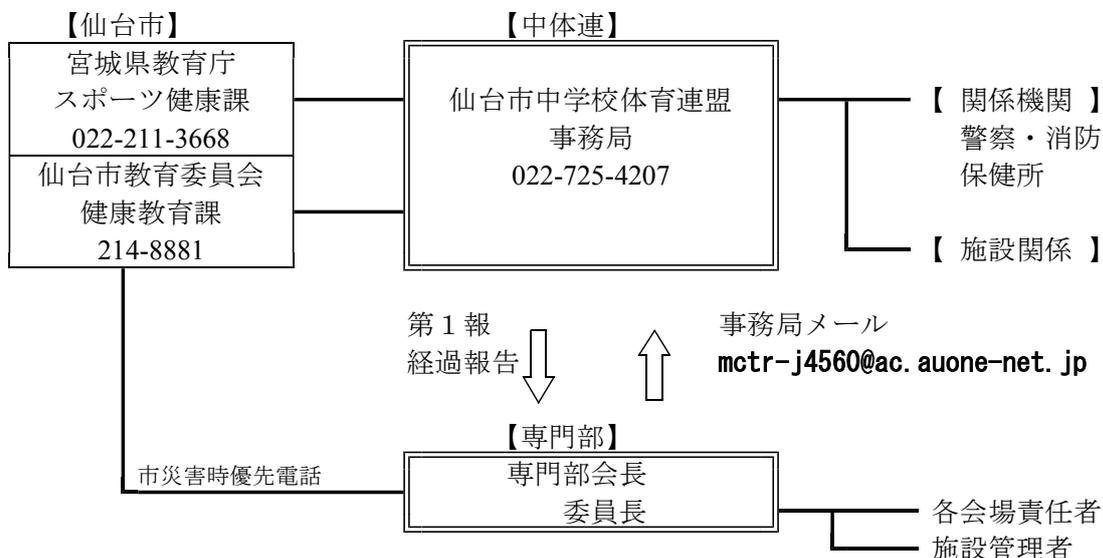
災害緊急時対応要項

宮城県中学校体育連盟
仙台市中学校体育連盟専門部

- 1 趣 旨 海岸公園野球場において地震や津波等の自然災害が発生した場合の大会運営上の対応方法を具体的に示す。
- 2 目 的 地震や津波の発生に関しては、大会運営者だけでは対応しきれないものもある。関係競技団体や仙台市教育委員会、宮城県教育委員会と連携をとりながら進め、適切に対応することを目的とする。
- 3 大会運営の基本
 - (1)原 則 …仙台市代表を決定することを原則とする。(最低限県大会出場校の決定とする。)
 - (2)最終判断 …最終判断は部会長が行う。
 - (3)予備日設定…予備日の設定及び順延は最大2日とする。
 - (4)大会の成立…災害、緊急事態等で参加不可の学校があった場合は、専門部、市中体連で協議し部会長が開催・延期・中止の決定をする。
- 4 対応の方針
 - (1)大規模な災害(大規模の地震、津波等)に関しては、仙台市中体連が対策本部を設置し、関連機関との連携を図りながら対応する。
 - (2)避難・救助活動の際には、仙台市の作成した海岸公園における津波対応の方針や施設管理者の判断に従い、対応要項に沿って現地で専門部 が指示をする。その際、市中体連と可能な限り連絡を取り合う。
 - (3)通常 of 自然災害(小規模の地震、降雨台風等)に関しては、部会長が競技実施の判断を行う。
 - (4)市中体連事務局は大会準備開催期間中に関係機関と連絡できる体制を整える。
(県教委、市教委との連絡調整、医療機関への協力依頼、警察・消防との連絡調整)
 - (5)状況によっては、仙台市教育委員会の指示指導に従い対応する。

5 体制

(1)連絡経路



- (2) 報告事項 市中体連事務局へは次の内容を報告（災害時はメールを使用）すること。
 ①発生時間・場所・状況・対象(人的、物的)、初期対応
 ②選手生徒の生命や怪我の状況の詳細
- (3) 情報収集 緊急時にはどの内容においても正確な情報を把握し、市中体連事務局（市理事長が総括）に報告すること。その後、関係機関との連携を図る。
- (4) 対策本部 緊急事態の状況により、県教委・市教委と協議し対策本部を設置する。
- (5) 報道対応 報道に関しての窓口は原則として市中体連事務局とする。
 ①県中体連事務局は仙台市教育委員会・宮城県教育委員会へ連絡報告をし、指示指導のもと対応を進める。
 ②専門部 会は正確な情報の収集と参加校への情報提供を行う。

6 対応の手順

地震発生	緊急地震速報が入った場合、または強い揺れを感じた場合、すばやく行動を起こす ①試合・練習等の中断 ②一次避難：即時グラウンド中央へ移動 ※頭部を守り、低い姿勢で待機	専門部（球場ごと）
	③揺れの判断 <u>強い揺れ・長い揺れ</u> → 揺れがおさまってから避難の丘へ誘導 <u>小さな揺れ</u> → 津波情報が出るまで待機 （気象庁発表は3分以内）	避難に関する判断 ↓ 施設管理者 相談、担当への指示 部会長・委員長 （トランシーバー） チーム・観客への指示 ↓ 専門部 生徒・保護者掌握 各校顧問
	◎避難の丘への移動の際の専門部の役割分担(各球場ごと) ・道路での誘導 ・集団の先導 ・球場ごとの最終チェック（最後尾） ・けが人、要介助者の確認+介助 ※人数が必要な場合、各校顧問や保護者の協力を得る ※部会長・委員長は先に避難の丘へ移動する 全体を見渡し、情報の収集、全体指示、各所との連絡調整をする	
	④地震、津波情報の収集 ・津波情報伝達システム（屋外拡声装置） ※避難区域に設置され、サイレンや音声で津波情報や避難情報を一斉伝達 ・携帯電話 ※緊急速報メール、テレビ・インターネット機能 ・ラジオ ・消防車、消防ヘリコプターによる広報活動	部会長・委員長・会場担当
	⑤二次避難・二次対応 <u>大津波警報・津波警報</u> → 試合の中止 解除されるまで避難の丘で待機 長時間解除されない場合は、警察・消防と連絡を取り合った上でその後の対応を検討する <u>津波注意報</u> → 原則試合の中止 即時撤収し、宿舎へ戻る <u>津波の恐れなし</u> → けが人の有無の確認、施設の安全確認 確実に安全であることが確認されれば競技再開可 ※部会長・委員長の判断	避難に関する判断 ↓ 施設管理者 相談、担当への指示 部会長・委員長 （トランシーバー） チーム・観客への指示 ↓ 専門部 生徒・保護者掌握 各校顧問
	⑥県中体連事務局への連絡 防災無線 → 鶴が丘中学校の防災無線（呼出番号 782）へ 電話、メールまたは災害時伝言ダイヤル	部会長・委員長
数分以内		

	<p>「避難の丘」へ避難した場合</p> <p>⑦生徒の安全確認・人数確認</p> <p>顧問が一人一人の安全確認をしながら人数確認 → 専門部 の人数確認担当に報告 → 部会長・委員長へ報告</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒には人数確認をさせない <input type="checkbox"/> 保護者・応援は足りない人がいないかどうか呼びかける <input type="checkbox"/> 部会長・委員長は逐一市中体連事務局へ連絡 <input type="checkbox"/> 大津波警報・津波警報が解除されるまで待機</p>	<p>顧問 ↓ 専門部 ↓ 委員長</p>
津波発生	<p>⑧ヘリによる救助のための準備</p> <p>避難の丘脇のヘリポートからヘリコプターによる救助予定 震目飛行場(海岸公園より数km)または消防よりヘリが出動予定 救助の順番を決め、整列しておく</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①乳幼児(+母親)・高齢者 ②生徒 ③女性 ④各校顧問 ⑤男性 ⑥専門部</p> </div> <p>誘導・指示は専門部</p>	専門部
津波発生せず	<p>津波が発生せず、大津波警報・津波警報が解除された場合 または、津波注意報へ変わった場合</p> <p>⑧撤収</p> <p><input type="checkbox"/> 各校顧問の指示のもと、チーム毎にまとまって球場へ戻り、片付け <input type="checkbox"/> グラウンド等はそのままとし、帰りの用意を急ぐ <input type="checkbox"/> 生徒輸送のバスを優先に移動をさせる <input type="checkbox"/> 専門部は、生徒、保護者、観客等残っている人がいないか確認をした後に撤収する <input type="checkbox"/> 専門部は安全区域で集合し、翌日以降の対応について検討する</p>	交通整理：専門部

7 補足資料

◎過去の津波到達時間やシミュレーション結果から、海岸公園付近の津波到達予想時間は
地震発生後の45分後の想定 ※ただし、震源地や震度等によって変化あり

◎海岸公園施設内から避難の丘までの距離、所要時間は、一番遠い第6球場で、
最大約600m、最大約10分

◎安全な区域（東部道路以西）まで
最大約4500m、最大約75分

◎仙台市の実施した「避難行動シミュレーション」によると、
車で避難する率が低いほど避難できる人数が増えることが実証された

◎車で避難すべきでないのは、以下の理由で「渋滞の発生」、「危険」を回避するため

- ①地震による車両故障、道路損傷、信号故障の可能性
- ②交差点での円滑な合流ができない、歩行者との譲り合いができない
- ③裏道、抜け道など幅の狭い道路にも車両が入り込み、進まない
- ④避難方向と逆方向へ行く車両があると、Uターン、速度低下で滞る
- ⑤安全区域である東部道路以西で道路上に避難車両が停車し、後続が進まない
- ⑥歩行者が道路をふさいでしまうことがある
- ⑦あせって交通事故が起こる可能性が通常より高くなる

※避難経路の途中にある県道塩釜亘理線、安全な区域とのほぼ境目にある産業道路は平時も
交通量が多く、東日本大震災の際に「車がぎっしり重なっていた」様子が目撃されている。

これらの状況をもとに、海岸公園での避難に際しては、以下の点を周知徹底させる。

× 車での避難 × 東部道路以西(安全区域)を目指した避難

地震発生時は 徒歩で 避難の丘へ 避難する